

自立活動 自主研修

「感覚統合」について

～みくまの支援学校 自活担当 中瀬真由美先生との研修会報告～

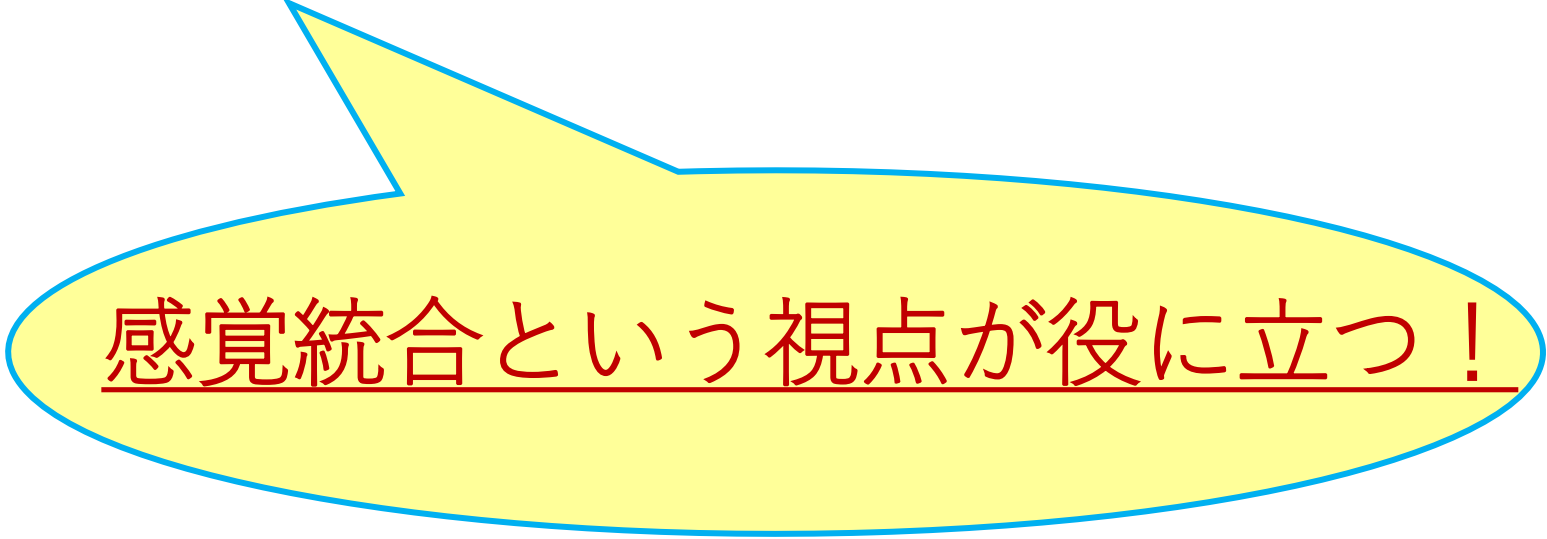
令和4年11月8日（火）16：00～17：00

報告者 自立活動部（熊代 栗山）

場所 南紀支援学校講堂

感覚統合に関する 基礎知識

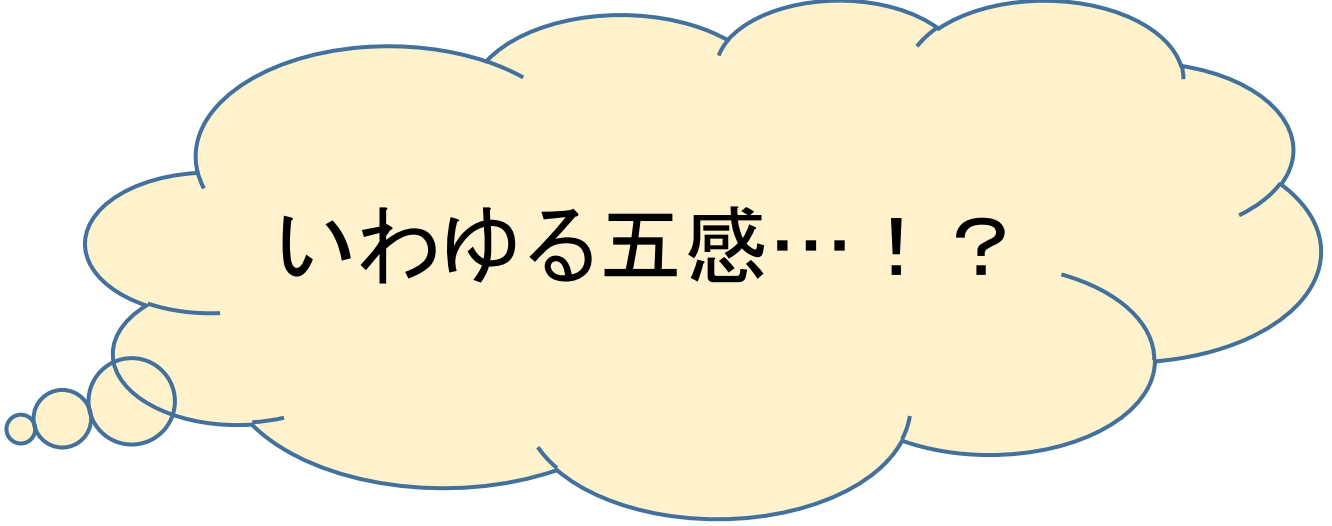
- 子どもは遊びなどを通して、様々な感覚を働かせて体を動かします。
- 運動（行動）だけを見るのではなく、体に入ってくる感覚にも目をむけ、運動と感覚の双方の関わりから捉えることが大切です。



感覚統合という視点が役に立つ！

「感覚」という言葉から何を連想しますか？

- 視覚
- 聴覚
- 味覚
- 嗅覚
- 触覚



いわゆる五感…！？

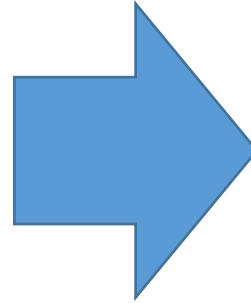
意識されにくい感覚もある

◎水の入ったバケツを足先で蹴っ飛ばしてしまい、
バケツが転がってしまった場面で生じる様々な感覚…

- ・ 視 覚→『あっ、バケツ』と転がったバケツを目で捉える。
- ・ 聴 覚→『ガシャーン』と蹴っ飛ばしたことを音で捉える。
- ・ **触 覚**→『ガツン！』とつま先で接触したことを感じる。
- ・ **固有覚**→『グッ！！』と筋肉や関節に衝撃として感じる。
- ・ **前庭覚**→『おっとっと…』とバランス（＝平衡）をとる。

◆発達の中で、特に大切になってくる5つの感覚◆

- 視覚
- 聴覚
- 触覚
- 固有覚
- 前庭覚



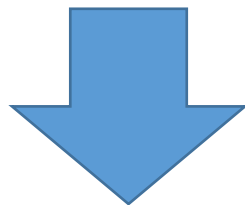
- ①触覚
- ②固有覚
- ③前庭覚

さらに、
重要な感覚！

感覚統合とは？

◎人間の発達過程で、「脳」が内外からたくさんの刺激を有効に利用できるよう、効率的に組み合わせること

もし「脳」が感覚統合してくれなかったら？



神経の交通渋滞で身動きできなくなる！

感覚統合がスムーズに行われているとき

体に入ってくる感覚情報が うまく交通整理され、
スムーズに通る（適応反応）

感覚統合に問題があるとき

体に入ってくる感覚情報が、一度にたくさん入ったり、
少なかったり、道が狭かったりで、交通整理できず、ス
ムーズに通らない

子どもたちの運動や行動に関する 大切な3つの感覚



触覚

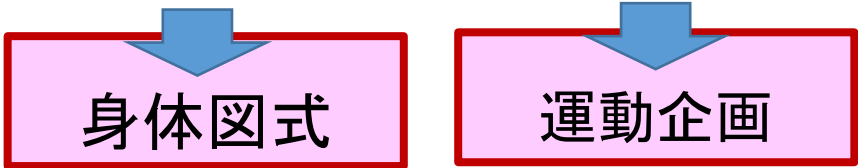
触ったり、触られたりすることを感じる

日常生活で大切な役割

例) まっくらな中で引き出しの中の懐中電灯を
見つける

危険から身を守る

ボディイメージや運動の器用さにも関係



身体図式

運動企画

固有覚

筋肉や関節の動きを詳細に感知する感覚

「固有覚」は3つの感覚の中でも、最も聞きなれない感覚。

ふだんは無意識に使う感覚なので、この感覚の使い方が崩れている子は、周囲に誤解されやすい。

固有覚がうまく働かないと・・・

力加減ができない

動作ががさつで乱暴と思われる

模倣や体操が苦手になる

前庭覚

いわゆる**バランス感覚**

重力・直線・回転の3つの加速度を感じ取っている
(耳の置くにある三半規管や耳石器で感知)

姿勢の維持や**目の動きのコントロール**などに関わっている

前庭覚がうまく働かないと・・・

姿勢の崩れ

じっとできない・多動

重力不安・姿勢不安

眼球運動の未発達

タイミングがつかめない

ボディイメージとは？

＝自分の体に対する実感

- ①自分の手足・体の輪郭、サイズ、位置や部位
- ②自分の手足・体の曲げ伸ばし具合、力加減
- ③自分の体の軸の傾き具合



体を器用に動かしたり、物を判別したりできる！

運動企画とは？

＝動作イメージを作り上げていくことで
手足や体を動かす際の

- ・手順を組み立てる
- ・範囲や力の加減を調整する
- ・リズムやタイミングを調整する
- ・体の軸やスピードを調整する 能力



これをもとに、器用に体を動かすことができる！

感覚統合基礎知識／まとめ

脳が発達 3つの大前提

「楽しい活動」

「ちょうど良いチャレンジとなる活動」

「成功したときの達成感」

感覚統合の3大原則

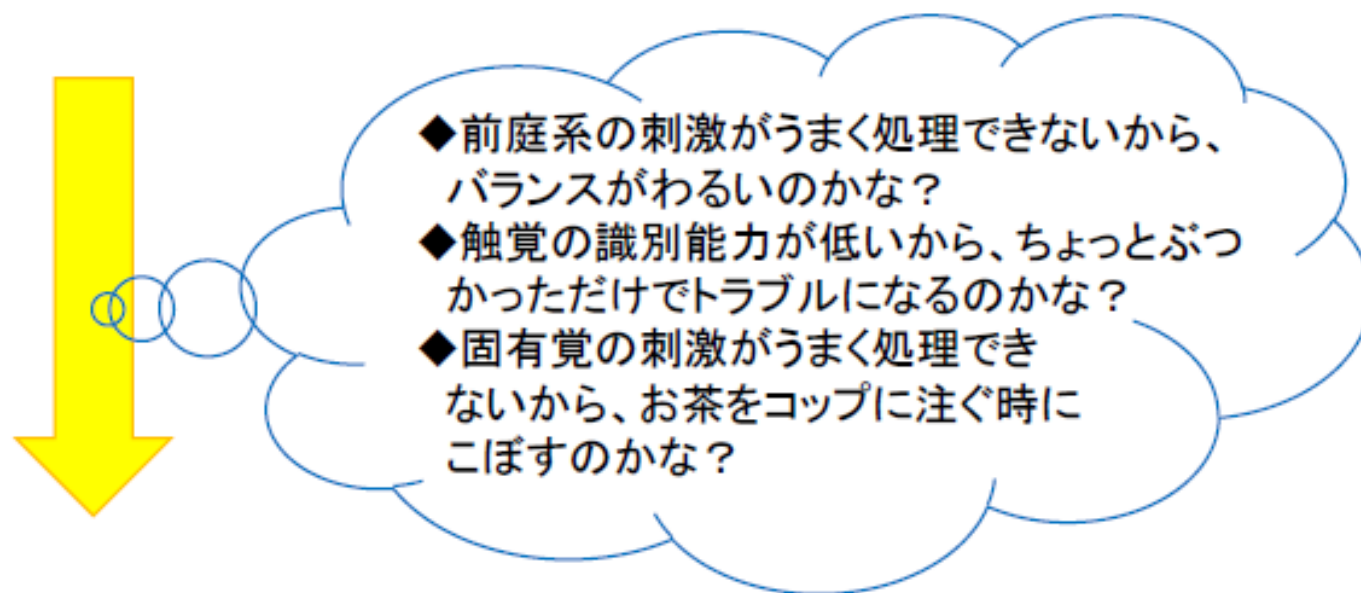
「感覚は脳栄養」

「感覚入力には交通整理が必要」

「感覚統合は積木を積み上げるように発達する」

感覚統合的な視点で

子どもたちを見ることができれば...

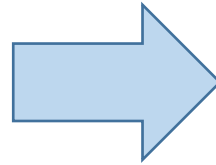


子どもたちの運動や行動の難しさの理解につながる！

事例紹介・質問

(1) 感覚統合や感覚統合的な視点で取り組まれている事例の紹介

- ・小学部3年生、男の子
- ・姿勢の崩れ
- ・運動面の苦手さ
- ・ひらがな・カタカナ・一部の漢字を読むことができるが、書くことに苦手さがある。

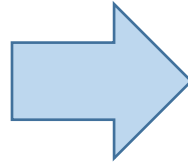


【評価】

- ・前庭系がうまく処理できていない
体の中心軸が意識しにくく、まっすぐ走ったり、両足をそろえてジャンプすることが難しい
- ・**眼球運動がスムーズに行えない**
- ・ボディイメージや運動企画が難しい
→これらのことが、運動の難しさや字の書きにくさにつながっていると考えた。

【指導内容】

- ・姿勢保持に関連するポーズ
（だんごむし、スーパーマン、
かかしなど）
- ・体の中心軸を意識する動き
（線上歩行、クロスウォークなど）
- ・眼球運動トレーニング
など



【現在の様子

（指導開始から4か月）】

- ・片足立ちが安定してきた
- ・体育の跳び箱を跳ぶことができた
- ・字を書くことに対する抵抗感が減り、字が読みやすくなった

(2) 感覚統合の視点での教育相談の事例紹介

小学部男子

「物を口に入れて噛んでいることについて」

→固有受容覚系の感覚刺激を自ら取り入れていると考えられる
なぜ？

本児の体の使い方から求めている固有受容覚が得られにくい。
気持ちを落ち着かせる効果がある。

→危険なものやあまりにも不衛生なものについては考慮が必要
だが、そうでないものについては、上記の理由から認めていく
方針となった。

(3) 感覚統合室で、使用頻度が高い遊具と、その活動例の紹介

前庭系に課題のある児童が多いので、そのような児童に揺れ遊具がおすすめ。

【活動例】

ウレタン積み木を揺れ遊具の前に置いて、揺れで倒すなどの活動は前庭系に働きかけるだけでなく、空間認知や運動企画の向上にもつながる。

(4) 感覚統合は早期には有効であることはよく言われているが、思春期以降や成人には、どのように教育効果のほどを考えればいいか。

- たしかに、治療効果と考えると**早期の方が有効**と思われる。
- ただし、感覚統合の処理に問題を抱えた子どもさんは、**まわりから理解されない**と徐々に欲求の満たされなさを解消する機会が減り、常に欲求不満の状態でいたり、**二次的に自己評価が下がったり**することが起きやすいと思われる。
- 年齢が上がってきて治療効果そのものは低くなっても、教育視点で考えると、その子の**感覚特性を理解し**、まわりに**説明すること**で理解を促したり、**感覚欲求が満たされること**による**心理的安定**につなげたりすることはその子どもにとって有効なのではないかと考えられる。

(5) 自閉症(ASD)の感覚特性の診断とその指導について(1)

- ・感覚特性の評価の仕方は非常にたくさんあるが、教育現場で全てを行うことは現実的ではないため、“臨床観察”といわれるものの中などから行いやすいものをピックアップして評価することができる。
- ・**ASDの子どもさんは、感覚過敏があることが多く、**それらは日常生活の様子から判断できるため、保護者が記入する評価シートも参考になる。
 - **“JSI-R”** (インターネットで検索してもらうと出てくる)
(mini もあります)

(5) 自閉症 (ASD) の感覚特性の診断とその指導について (2)

指導については、子どもさんの様子によりさまざまである。

感覚過敏については、“**触覚防衛**”といわれている**状態を軽減**できるように指導を考えていく。

(5) 自閉症(ASD)の感覚特性の診断とその指導について(3)

触覚には「原始系」と「識別系」がある。

触覚がうまく働かないと・・・

「触覚防衛」という反応が現れやすい。

たとえば・・・

養育行為への拒否や抵抗

身につける物へのこだわり

アクティブタッチはOK、パッシブタッチはNG

触ることができる素材が偏る

(5) 自閉症 (ASD) の感覚特性の診断とその指導について

触覚防衛が作り出す大きな問題

「社会性」が育ちにくくなる

「共感性」が育ちにくくなる

(6) 重度の知的障害には有効性が薄いと感じておられる方がいらっしゃるが、その場合、実践の有効性の行動評価はどのように考えれば良いか

- 重度の知的障害や身体障害がある子どもさんにもそれぞれ感覚特性がある。ただし、重度の障害がある子どもさんは**反応が乏しかったり、客観的な評価が難しかったりするため、有効性を証明しにくい**のではない。
- 軽度の子どもさんのように働きかけの前後で明らかな変化などは認めにくくても、感覚特性に応じた働きかけは有効であると考えられる。
- 有効性の評価については、子どもさんの**わずかな反応の違い**や先ほど紹介したJSR-Iなどで日常生活面での変化について定期的にチェックを行うことで実施できると思われる。

引用文献・参考文献

- 佐藤剛監修：『感覚統合Q&A』 協同医書出版
- JaneCase-Smith,CharlanePehoski編著：『ハントスキル』 協同医書出版
- 木村順著：『育てにくい子にはわけがある』 大月書店
- 木村順著：『発達障害の子の感覚遊び運動遊び』 講談社
- 木村順著：『保育者が知っておきたい発達が気になる子の感覚統合』 学研
- 木村順著：『「小学校で困ること」を減らす親子遊び10』 小学館
- 鴨下賢一編著：『発達が気になる子への生活動作の教え方』 中央法規
- 中尾繁樹著：『不器用な子どもたちの感覚運動指導』 明治図書
- 発達協会実践セミナー「不器用さ」への理解と指導資料
- 感覚統合学会認定講習会Aコース資料